

各関係機関長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除所長

平成13年度病害虫発生予察特殊報第1号について
平成13年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成13年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成13年12月12日
宮崎県

- 1 病害虫名：トマト黄化葉巻病
- 2 作物名：トマト
- 3 病原ウイルス：トマト黄化葉巻ウイルス
(Tomato yellow leaf curl virus：TYLCV)

4 発生概況

平成13年11月に県平野部の施設栽培トマトで、新葉が黄化、萎縮し頂部が叢生する症状が発生した。宮崎県総合農業試験場環境部及び独立行政法人農業技術研究機構九州沖縄農業研究センターに同定を依頼した結果、トマト黄化葉巻病と同定された。

5 病徴

発病初期は、新葉が葉縁から退緑しながら葉巻症状となり、後に葉脈間を残して黄化し縮葉となる。病勢が進行すると、頂部が叢生し株全体が萎縮する。特に、トマトの生育初期に感染すると激しく発病する。また、果実では、発病前に着果したものは正常に発育するが、発病後は開花しても不稔となることが多い。なお、ミニトマトやファースト系トマトでは被害が比較的軽い場合が多い。

6 伝染方法

本ウイルスは、主にシルバーリーフコナジラミによって伝染し、成虫または幼虫のいずれでも、感染株を吸汁することによって保毒し、約1日の潜伏期間を経た後、ウイルスを伝搬する能力を持つ。経卵伝染の可能性については、現在のところ日本での報告はないが、その可能性は指摘されている。なお、管理作業による汁液伝染、種子伝染、土壌伝染及びアブラムシ類による伝搬はない。

7 TYLCVに感染する可能性のある植物

- ナス科：トマト、タバコ、チョウセンアサガオ、オオセンナリ、イヌホオズキ
- キク科：ノゲシ、ヒャクニチソウ
- マメ科：インゲン、ヒラマメ
- アオイ科：ウサギアオイ
- リンドウ科：トルコギキョウ
- トウダイグサ科：エノキグサ、シヨウジョウソウ
- ナデシコ科：ウシハコベ

8 防除対策

- 1) 育苗期からシルバーリーフコナジラミの防除を徹底する。
- 2) 発病株は早期に抜き取り、埋没処分を行う。圃場周辺に感染株を絶対に放置しない。
- 3) 圃場周辺の雑草はシルバーリーフコナジラミの寄主植物となるので除草を徹底する。
- 4) 施設栽培では、施設開口部に寒冷紗(1.0mm以下)を張り、シルバーリーフコナジラミの侵入を防止する。
- 5) 施設栽培では、栽培終了時にハウスの蒸し込みを行い、トマトを枯死させて、シルバーリーフコナジラミを死滅させるとともに、施設外への分散を防ぐ。